



世界への
プレゼントに
なろう

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

WEEKLY REPORT

No.2812 2015年8月17日

事務所 ひたちなか市海門町二丁目 8-13 ひたちなか商工会議所那珂湊支所内
 TEL.029(263)7811 例会日 毎週月曜日 12:30
 FAX.029(263)6859 例会場 常陽銀行湊支店二階会議室
 URL : <http://www.nakaminato-rc.com/>

★ 点 鐘

卯野福弥会長
 ロータリーソング「奉仕の理想」
 司会 奥山正紀SAA

★ ビジター紹介

卯野福弥会長
 水戸東RC 木村 利様

★ 出席報告

榎木直行委員長
 会 員 数 32名
 出 席 者 17名
 欠 席 者 13名
 出席免除者 2名
 メークアップ 4名
 出 席 率 70.0%

★ 会長挨拶

卯野福弥会長
 八朔祭や花火大会、そしてお盆も終わり湊の街にいつもの静けさが戻って来ました。お盆と言えば、私の住んでいる組内では、30数年前からバーベキュー大会を実施しています。このところ毎年お盆の時期に実施しているため、先

週の14日は実家に帰省していた人や隣近所の人達と「飲コミュニケーション」をとることができました。今の時代、近所の老若男女が一緒になって夜遅くまで語り合える場合は、本当に貴重です。昨今は昔と違って向こう三軒両隣の付き合いさえ煩わしく思う傾向があります。昔から比べると地域の連帯意識は確かに薄れてきています。それに伴い人間関係が希薄化してきています。これからも人と人とのつながりはできる限り大切に、若い世代にもこのようなイベントを継続して行ってほしいと願っています。

また、昨夜は湊一小学区地域を住みよくする会主催の盆踊り大会がジャムジャム前の公園で行われました。心浮き立つ太鼓の音が鳴り響き、参加者はそれぞれに夏の一夜を満喫していたようです。とはいえ、最近では、地域のお祭りを騒音と感じる人もいます。今朝のニュースによりますと愛知県東海市で「無音盆踊り」が実施されたとの報道がありました。FM電波で曲を飛ばし、踊り手が携帯ラジオで受け踊り手がイヤホンで音楽を聴きながら踊るとのことです。「不気味」という反応の一方で、「踊りに没頭できる」という好評価もあったようです。地域住民の連帯感と一体感が持ち味だった盆踊りが変化しつつあるようです。

★ 幹事報告

遊座文郎幹事

・ 例会プログラムの変更についてお知らせします。

9月7日(月)は、昼の例会でなく夜の例会(卓話者 藤咲久光会員)を藤屋ホテルで行います。内容は「胴体体操」といって軽い運動を行いますので、運動のできる服装がよろしいかと思えます。肩こりや腰痛の予防にはもってこいの体操だそうですので是非ご参加ください。

18:00～19:00 (前半 講話、後半 実技)

19:00 食事(アルコールなし)

・ 8月24日の例会日に定例理事会を開催いたしますので関係者は出席して下さい。

★ 認証ピンの贈呈

卯野福弥会長

国際ロータリーより新会員を推薦した会員に感謝の意を表するため、推薦者に特別な認証ピンを進呈したいので、例会の時に推薦した方にこの認証品を贈呈するようとの封書が先日届きました。そこで本日、この場で黒沢利勝会員にお渡ししたいと思います。

ちなみに、この中には認証ピンと青色の裏あてが入っています。裏あては4つの異なる色があります。それは何人の新会員を推薦したかによって異なります(1名の場合は青、6名以上の場合はゴールドなど)。

★ 委員会報告

ニコニコボックス委員会

榎木直行委員長

高田憲一郎会員……8月15日靖国神社へ参拝に行つて参りました。参拝者は3～4万人。警察・機動隊が2～3千人で、右翼の街宣車等のデモ行進もあり、異様な雰囲気でした。

★ 卓話

「暮らしに役立つ諺」

金子貞夫会員

○ 挨拶は時の氏神

喧嘩や口論をしているときの仲裁は氏神のようになりたい。仲裁には従うべきであるということ。「仲裁は時の氏神」ともいう。▷「挨拶」は仲裁の意。「氏神」は祖先として祀る神。

○ 空樽は音が高い

空き樽を叩くと大きな音が出る。同じように、中身のない人間ほど大きなことを言ったりするものであるということ。☐ やせ犬は吠ほえる

○ 悪銭身に付かず

悪いことをして得た金は、つまらないことに使つてしまい、すぐになくなってしまふということ。

○ 明日の百より今日の五十

当てにならない先のことより、わずかでも今確実に手にできるもののほうがよいということ。「後の千金より今の百文」ともいう。

○ 家柄より芋幹

芋幹は食べられるが家柄はどんなに立派であっても食べられない。身分や家柄がよくても、生活する上ではなんの役にも立たないということ。

▷「芋幹」は、里芋の茎を干したものだ。

○ 石に立つ矢

何事も心を込めてやればできないことばないということ。▷虎を狙つて射た矢が石に刺さつたという故事から。☐ 思う念力岩をも徹す

○ 石に布団は着せられぬ

親が死んでから、寒いだろうと墓石に布団を着せても意味がない。親が活着しているうちに孝養を尽くせという教え。「墓に布団は着せられぬ」ともいう。☐ 孝行のしたい時分に親はなし

○ 一寸先は闇

これから先の人生にどんな運命が待ちかまえているのか、予測もつかないことのとたとえ。

○ 犬も歩けば棒に当たる

どんなことでも、やっているうちに思いがけない幸運に出会うというたとえ。また、でしゃばると思わぬ災難にあうといういましめ。

○ 芋の煮えたもご存知ない

芋が煮えたのもわからないような、甘やかされて育つた世間知らずをあざけつていうことば。

○ 容れ物と人はあるものを使え

道具や人は、自分の手近にあるものを使えばよいということ。☐ 立っているものは親でも使え

○ 浮世渡らば豆腐で渡れ

豆腐は四角できちつとした形をしているが、やわらかい。世の中を渡るのも、真面目かつ柔軟であるべきだということ。

○ 氏より育ち

家柄よりも育つた環境や教育の善し悪しのほうが、人間をつくる上で大切だということ。

○ 嘘から出た実

うそのつもりで言ったことが偶然にも起こり、本当のことになること。

○ 嘘をつかねば仏になれぬ

仏様でも、人を救うためにはうそをつくものなのだ。ましてや人間が方便としてうそをつくのは当然のことであるということ。☐ 嘘も方便。

嘘つきは泥棒の始まり

○ 旨い物は宵に食え

旨いものでも時間がたてば味がおちるので、早めに食べておいたほうがよい。いい話も、素早く進めておいたほうがよいということ。[同] 善は急げ

○ 生みの親より育ての親

自分を生んだだけの親よりも、養育してくれた親のほうがありがたいということ。「生みの恩より育ての恩」ともいう。

○ 得意に帆を揚げて

実力を発揮できる絶好の機会が到来し、おおいに勇み立つこと。「得意に帆」ともいう。

○ 江戸の敵を長崎で討つ

意外な場所で、また筋違いなことで、かつて受けた恨みの仕返しをすること。

○ 縁の下の力持ち

だれも見えてくれないところで苦労や努力をすること。

○ 縁は異なるもの味なもの

男女の縁というものは、予測がつかず不思議なものだということ。

○ 遠慮は無沙汰

あまり訪ねていっては迷惑になると思って遠慮しすぎると、無沙汰となり、逆に失礼になるということ。▷「無沙汰」は便りや訪問をしないこと。

○ 老いては子に従え

年を取ったらあまり出しゃばったことはせず、何事も子供にまかせて従ったほうがよいということ。

○ 負うた子に教えられて浅瀬を渡る

おぶった子に浅い瀬の場所を教えられて川を渡るように、ときには年下で経験の浅い者から物事を教わることもあるということ。

○ 負うた子を三年探す

近くにあることに気づかず、長い間探し回ること。身近なものは見落としがちなこと。例え。「負うた子を七日尋ねる」ともいう。

○ 鬼に金棒

ただでさえ強い者に、さらに強くなる要素が加わること。

○ 鬼も十八

どんな娘も年ごろになればそれなりの魅力や色気が出てくるものだということ。

○ 溺れる者は藁をも掴む

溺れている者は、藁のように頼りにならないものでも掴もうとする。せっぱつまったときには、頼りにならないとわかり切っている者にさ

え助けを求めることのたとえ。

○ 思い内にあれば色外に現る

心に思っていることは、いくら隠そうとしても自然と態度や言動に表れるということ。

○ 恩を仇で返す

人から受けた恩に対し、恩返しをするどころか、かえって傷つけるような仕打ちをすること。

[同] 後足で砂をかける

○ 金は天下の回りもの

お金は一か所にとどまらずにあちこち回っているものだから、いつかは金のない人のところにも回ってくるものだということ。▷金銀は回り持ち

○ 果報は寝て待て

幸運は人の力で呼び寄せられないので、気長に運が向いてくるのを待てばよいということ。

[同] 待てば海路の日和あり

○ 亀の甲より年の劫

経験を積んだ年長者は尊敬すべきであることのたとえ。「亀の甲より年の功」とも書く。▷「劫」は長い時間の単位のこと。

○ 聞いて極楽見て地獄

人から聞いた話と実際に見たものとは、まるっきり違っていることのたとえ。

○ 気が利きすぎて間が抜ける

注意がいきとどいているようで、大事な点に落ち度があること。

○ 聞けば気の毒見れば目の毒

見たり聞いたりして物事を知ってしまうと、かえって悩みが生じ、迷いの原因となる。自分にかかわりが無いことは知らないほうがよいということ。[同] 聞けば聞き腹

○ 雉も鳴かずば打たれまい

無用な発言をして災難を招くことのたとえ。不用意なことは慎まなければならないといいましめ。雉も鳴き声を発しなれば、居場所が知られずに撃たれることもないという意から。

[同] 鳴く虫は捕まる

○ 兄弟は他人の始まり

一番仲のよい血を分けた兄弟でも、それぞれの家庭を持てば疎遠になり、他人同士になるということ。「兄弟は他人の別れ」ともいう。

[同] 血は水よりも濃い

○ 京に田舎あり

華やかに開けた都にも、田舎のようにひなびた場所や風習が残っているものだということ。

○ 京の夢大阪の夢

京都のことが急に大阪のことにならなったりす

るように、夢はとりとめのないものだという
こと。また、京都のものも大阪のものも、夢の中
でならたやすく見ることができるよう、夢で
はさまざまな願望が叶えられるということ。

○ 義理と禪は欠かされぬ

いつも身につけている禪と同じように、常に
義理を欠いてはいけないということ。

○ 臭いものに蠅がたかる

悪い者は悪い者同士で集まるということ。

○ 臭いものに蓋をする

知られたくない悪事やよくない評判などが人の
耳に入らないように、一時逃れの手段で隠すこと。

○ 食わせておいてきてと言ひ

たっぷりとご馳走して、断りにくい状況を作り
だしておいてから「さて、お願いですが…」と
頼み事をする事。

○ 君子危うきに近寄らず

教養のある人格者は、最初から危険なところ
には近づかないということ。▷虎穴に入らざ
んば虎子を得ず

○ 君子は豹変す

教養のある人格者は、あやまちと知ったらそ
れをすぐ改めるということ。今日では悪いほう
に変わる場合にも使う。「豹変」は豹の毛が抜
け代わり、縞模様が鮮やかになること。[回] 大
人は豹変す

○ 下戸の建てたる蔵もなし

酒を飲まないぶん金を使わないからといっ
て、財産を残したという話は聞かないというこ
と。▷「下戸」は、酒の飲めない人。

○ 下駄と焼き味噌

外形は似ていても実質がまったく異なる物事
のたとえ。

○ 下駄も仏も同じ木のきれ

はじめは同じでも、最後には非常に差がつく
ことのたとえ。また、身分などに差があっても、
人間としての根本は同じであるということ。足
に踏まれる下駄も人に尊ばれる仏像も同じ木で

できていることから。「下駄も阿弥陀も同じ木の
きれ」ともいう。

○ 巧遅は拙速に如かず

巧みであっても遅いということは、うまくは
ないが速いということに及ばない。物事は素早
く進めるべきだということ。

○ 紺屋の白袴

他人のために忙しく働いているが、自分のこ
とはかまっていられないことのたとえ。物を染
める紺屋が、自分は染めていない白い袴をはい
ていることから。[回] 医者の不養生・髪結ゆいの
乱れ髪・大工の掘っ立て小屋

○ 子は鋸

子供が、夫婦の仲をつなぎ止める大切な存
在であることのたとえ。▷「かすがい」は木材を
つなぎ止める両端の曲がった釘。

○ これに懲りよ道才防

これに懲りて二度と同じあやまちをくり返す
な、というのを調子よく言ったことば。「道才坊」
は「道齋坊」とも書く。口調をととのえるために
つけた語。

○ 子を持って知る親の恩

自分が人の親になってみて、はじめて親のあ
りがたみがわかるということ。

○ 才子才に倒れる

なまじ才能があると、かえってその才能を過信
して身を誤るもことになること。[回] 才智は身の仇

○ 竿の先に鈴

よくしゃべること、やかましいことのたとえ。

○ 酒は飲むとも飲まるるな

酒は飲んでもいいが、本心を失うほどの飲み
方はするなという、酒飲みに対する忠告。

○ 触らぬ神に祟りなし

物事にかかわり合いをもたなければ、災難を
招くことはない。不必要なことに手を出すこと
へのいましめ。「知らぬ神に祟りなし」ともいう。

[回] 近寄る神に罰当たる ・ 触らぬ蜂は刺さぬ

(以下次回)

倉沢修市ガバナー 公式訪問日程

11月16日

初心にかえり新たなる一步を



「出席はロータリアンの3大義務の1つです」